

製品名: p38 MAPK (14D12) ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe15617

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:20-1:50,IP 1:10-1:100
分子量	41kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPK14
別名	MAPK14; CSBP; CSBP1; CSBP2; CSPB1; MXI2; SAPK2A;EXIP; Mxi2;PRKM14; PRKM15; RK; p38; p38ALPHA;
遺伝子 ID	1432.0
SwissProt ID	Q16539
免疫原	ヒト p38 の合成ペプチド

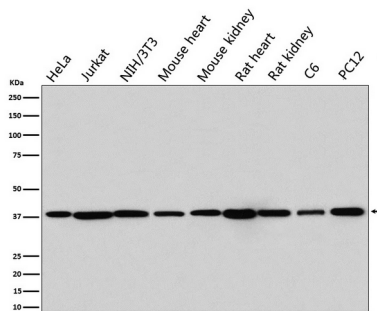
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MAPキナーゼファミリーのメンバーです。MAPキナーゼは、複数の生化学シグナルの統合点として機能し、増殖、分化、転写調節、発達など、様々な細胞プロセスに関与しています。MAPキナーゼシグナル伝達経路の必須構成要素として機能するセリン/スレオニンキナーゼです。MAPK14は、炎症性サイトカインや物理的ストレスなどの細胞外刺激によって引き起こされる細胞応答のカスケードにおいて重要な役割を果たす4つのp38 MAPKの1つであり、転写因子の直接活性化につながります。したがって、p38 MAPKは幅広いタンパク質をリン酸化するため、それぞれ約200~300の基質を持つと推定されています。

研究分野

シグナル伝達

画像データ



(1) HeLa 細胞溶解物、(2) Jurkat 細胞溶解物、(3) NIH/3T3 細胞溶解物、(4) マウス心臓溶解物、(5) マウス腎臓溶解物、(6) ラット心臓溶解物、(7) ラット腎臓溶解物、(8) C6 細胞溶解物、(9) PC12 細胞溶解物における p38 MAPK 発現のウエスタンブロット分析。